

○文学部3ポリシー

学部名	学科名	学位名	学位プログラム	教育目的	ディプロマ・ポリシー (学位授与方針・DP)
文学部	人文学科	文学	人文学	<p>・人文学の基礎知識を習得し、かつ理解すること。 ・「古典」を継承し、その内容を創造的に発展させること。 ・人文学に特徴的な人間・言語・文化・社会の諸現象を分析することを通して、自ら問題を発見し、筋道を立てて思考し、その結果を精確に表現できる能力を身に付けること。 ・人文学的素養や思考方法、読解能力など専門的な技法を身に付けること。 ・人文学に関わる諸問題への関心と感受性を涵養すること。 ・生活および仕事の場に応用可能な人文学的知性を身に付けること。 ・専門職にふさわしい技能を習得すること。</p>	<p>A知識・理解 ・人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。 ・専門分野の基礎知識に基づいて、人間と社会のあり方とそれへの多様なアプローチを理解できる。 ・「言葉」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深める。 ・史資料・文献・作品の分析と解釈、および実地調査などに基づいて、世界における文化・歴史・社会の多様性と共通性を理解し説明できる。 ・現代世界における様々な人文現象や社会問題を、批判的視点から理解し説明できる。</p> <p>B 技能 B-1 専門的能力 ・長い文化的伝統のなかで人類が生み出してきた知的所産である「古典」を、厳密に読解する能力を身に付けることができる。 ・専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。 ・外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を世界に向って発信できる。 ・専門分野に固有の問題設定や研究手法を正しく身に付けることができる。 ・専門分野で必要な史資料や文献を収集、分析して、その内容を自分の言葉で精確に表現できる。 ・批判的な討論を通して、自らの意見をより客観的視点から組み立てる姿勢を養うことができる。 ・文献などの収集能力およびフィールドや実験などの研究能力と、それを系統立てて整理する論理的思考能力を、各研究分野と中等高等教育分野のほか、様々な職種へ活用できる。</p> <p>B-2 汎用的能力 ・知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。 ・新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示する能力を身に付ける。 ・人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力を身に付ける。 ・専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得する。 ・学問的な討論の場を通して、自分の意見を精確かつ明確に表現する能力と他者の意見を理解するコミュニケーション能力を鍛錬し、広く世界と交流できる力を養う。 ・社会と学問の関わりについて、専門分野の学習を通して理解を深め、考える能力を身に付ける。</p> <p>C 態度・志向性 ・自ら進んで新しい問題に取り組む積極性を持つ。 ・史資料や文献、情報の収集と読解に地道に取り組む姿勢を持つ。 ・問題の解決にあたって様々なアプローチの可能性を考えようとする姿勢を持つ。 ・専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲を持つ。 ・専門分野の発展へ自ら寄与しようとする意欲を持つ。 ・人文学の視点から人類や世界、地域社会への貢献を考える志向を持つ。</p>
				<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針・CP)</p>	<p>アドミッション・ポリシー (入学者受入れ方針・AP)</p>
				<p>初年次には、人文学の基礎的な知識の習得を目指すとともに、幅広く人間の創造力や知性に対する関心を養う。また2年次に進む専門分野を選ぶため広く人文学固有の思考や方法に触れる。専門分野に進んでからは、文献資料の収集や実験、実地調査など所属する専門分野における基礎的な技術と方法論を身につけ、それを深めるとともに、基本的な文献を読解する能力と、外国語の能力を高める。また学問的な討論の場を通して、異なる意見を理解し尊重することの大切さを学ぶとともに、自分の意見を適確に表現することの重要性を学ぶ。</p> <p>3年次になると、人文学への幅広い関心や知識を育みながらも、卒業論文を視野に入れた、専門的な知識や技術を深めていく。4年次には、卒業論文の作成を具体的な目標とすることで、獲得した知識や情報を有機的に統合し、固有の思考や方法論への理解を深めるとともに、自ら問題を設定し解決していく姿勢を育む。また自分の意見を論理的に表現する能力を高める。</p>	<p>●求める学生像(求める能力、適性等) 文学部では、自ら問題を見出し、筋道を立てて思考し、精確に表現できる学生の育成を目指しています。そのためには、自らの足で歩き、目で見、手で触れ、他の人々と対話しつつ自らの考えを発展させていく姿勢が大切です。それゆえ、文学部で学ぼうとする者は、何よりも次の三つの資質を備えていることが望まれます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉への強い興味。とりわけ、文学作品や古典に対する感受性 2. 人間への飽くなき好奇心と、「私とは何か?」という真摯な問いかけ 3. 文化・歴史・社会といった、世界の多様性への開かれた関心 <p>●入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、選抜基準等) 文学部は高等学校の教育課程を尊重し、受験生の基本的知識、論理的思考力、表現能力を重視しています。センター試験においては、幅広い基本的知識の習得を見るため、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語を課しています。一般入試(前期日程)においては、より深い知識と論理的思考力を見るため、国語・数学・外国語・地理歴史を課し、マークシート方式のセンター試験を補完する形で記述式の問題を中心に出題しています。一般入試(後期日程)においては、論理的思考力と表現能力を見るため、小論文を課しています。</p>

○人文科学府3ポリシー

学府名	専攻名	学位	教育目的	ディプロマ・ポリシー (学位授与方針・DP)
人文科学府	人文基礎専攻	修士・博士	<p>《修士・博士》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人文基礎、すなわち、哲学および芸術学という学問領域において、国際的に有意義な研究を推進する能力を育成する。 学士課程での学習や学問的経験を基礎にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても多角的に考察しうる人材を養成する。 	<p>《修士》</p> <p>○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> 哲学および芸術学という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った教養知識を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。 博士課程に進学し、専攻する学問領域においてさらに研究を深化させて、独創的な成果をあげること。 教育・研究に関連した職業に就き、哲学 および芸術学の体系的な知識や方法論を社会に普及させ、その一層の活用を図ること。 <p>到達目標</p> <p>A 知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 哲学を対象とする領域では、古典的な文献著作を厳密に読解するとともに、重要な先行研究に基づいてその内容を批判的に検討し考察できる。 芸術学を対象とする領域では、芸術作品を正確に理解するとともに、重要な先行研究をふまえて作品を分析し考察できる。 哲学、倫理学、インド哲学史、中国哲学史、芸術学、これらのうち一つについて、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。 <p>B 技能</p> <p>B-1 専門的能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 哲学および芸術学の領域に関する文献や一次資料を厳密に読解する能力を身につける。 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。 哲学的著作あるいは芸術作品 について実証的に考察し、かつ理論的な分析を加えることができる。 <p>B-2 汎用的能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。 人文科学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示する能力を身につける。 <p>C 態度・志向性</p> <ol style="list-style-type: none"> 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性を持つ。 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。 哲学あるいは芸術学の発展に自ら寄与しようとする意欲を持つ。
			<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針・CP)</p>	<p>《博士》</p> <p>○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> 哲学および芸術学という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った教養知識を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。 哲学および芸術学の体系的な知識や方法論を活かすべく、大学等の教育・研究機関に就職し、教育や研究において先導的な役割を果たすこと。 当該の専門分野において独創性を発揮し、探究から得られた新たな学問的成果を世界に発信して、学問領域の発展に貢献すること。
			<p>《修士・博士》</p> <p>●教育プログラム</p> <p>本専攻は、哲学、倫理学、インド哲学史、中国哲学史、芸術学の五つの専修に分かれていて、学生はどれかの専修を選択して、指導教員(1名)と副指導教員(複数名)のもとで研究指導を受けます。修士課程は論文指導2単位を含めた合計30単位以上の修得と修士論文、博士後期課程は論文指導4単位の修得と博士論文が修了要件となります。</p>	<p>到達目標</p> <p>A 知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 哲学を対象とする領域では、古典的な文献著作を厳密に読解するとともに、重要な先行研究に基づいてその内容を批判的に検討し考察できる。 芸術学を対象とする領域では、芸術作品を正確に理解するとともに、重要な先行研究をふまえて作品を分析し考察できる。 哲学、倫理学、インド哲学史、中国哲学史、芸術学、これらのうち一つについて、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。
			<p>アドミッション・ポリシー (入学者受入れ方針・AP)</p>	<p>B 技能</p> <p>B-1 専門的能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。 哲学的著作あるいは芸術作品について実証的に考察し、かつ理論的な分析を加えることができる。 研究成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。 <p>B-2 汎用的能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛える。 専門分野の学習を通じて人文科学 と社会のかかわりについて問題意識を育む。
			<p>《修士・博士》</p> <p>●求める学生像</p> <p>本専攻は、真・善・美という人類の最も基本的な価値を研究することが特色ですので、学生は、ものごとを根本から思索する能力が求められます。そのために、過去の偉大な古典を厳密かつ正確に読解する能力が必要とされます。</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>入学選抜に当たっては、なによりも本専攻の教育理念にふさわしい人材の確保を基本方針とします。そのために、研究計画書あるいは論文の提出を求めるとともに、各専修に必要な専門知識や語学力を問い、さらに口頭試問を課します。</p>	<p>C 態度・志向性</p> <ol style="list-style-type: none"> 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性を持つ。 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。 人文科学の視点から社会への貢献を志向する。

学府名	専攻名	学位	教育目的	ディプロマ・ポリシー (学位授与方針・DP)
人文科学府	歴史空間論専攻	修士・博士	<p>《修士》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献史学・考古学・地理学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供する。 ・学士課程での学習や学問的経験を基礎にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても多角的に考察しうる人材を養成する。 	<p>《修士》</p> <p>○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・地理という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。 ・博士課程に進学し、専攻する学問領域においてさらに研究を深化させて、独創的な成果をあげること。 ・教育・研究に関連した職業に就き、文献史学・考古学・地理学の体系的な知識や方法論を社会に普及させ、その一層の活用を図ること。 <p>到達目標</p> <p>A 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> a 収集した史資料・データを文献史学・考古学・地理学的方法論にもとづいて的確に分析し、実証的な歴史像および歴史・地域認識を提示することができる。 b 日本史学、東洋史学、朝鮮史学、考古学、西洋史学、イスラム文明史学、地理学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。 <p>B 技能</p> <p>B-1 専門的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> a 歴史空間論の領域に関する文献史料や一次資料、調査データを分析し、その結果を他の研究者にも幅広く活用可能な資料体として構築できる。 b 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。 c 人類の歴史・空間に関わる諸事象について実証的に考察し、かつ理論的な分析をくわえて、その成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。
			<p>《博士》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献史学・考古学・地理学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供する。 ・修士課程での研究や学問的経験を基礎にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても、国際的な視点に立ち根源的に考究しうる人材を養成する。 	<p>B-2 汎用的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。 b 人文学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。 c 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛え、他の領域と交流する視点を養う。 d 専門分野の学習を通じて人文学と社会のかかわりについて問題意識を育む。 e 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示し、実行する能力、またそのためのチームを運営する能力を身につける。 <p>C 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性をもつ。 b 共同研究において協力関係を築き、問題解決へ努力する協調性を備える。 c 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。 d 歴史学あるいは地理学の発展に自ら寄与しようとする意欲をもつ。 e 人文学の視点から社会への還元を志向する。
			<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針・CP)</p>	
			<p>《修士・博士》</p> <p>●教育プログラム</p> <p>本専攻は、日本史学、東洋史学、朝鮮史学、考古学、西洋史学、イスラム文明史学、地理学の7専修から構成され、また修士課程における分野横断的な教育カリキュラムとして歴史学拠点コースを置いています。学生はどれかの専修を選択して、指導教員(1名)と副指導教員(複数名)のもとで研究指導を受けます。修士課程は論文指導2単位を含めた合計30単位以上の修得と修士論文、博士後期課程は論文指導4単位の修得と博士論文が修了要件となります。また歴史学拠点コースの学生は所定の関連科目を4単位以上修得しなくてはなりません。</p>	<p>《博士》</p> <p>○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・地理という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。 ・文献史学・考古学・地理学の体系的な知識や方法論を活かすべく、大学等の教育・研究機関に就職し、教育や研究において先導的な役割を果たすこと。 ・当該の専門分野において独創性を発揮し、探究から得られた新たな学問的成果を世界に発信して、学問領域の発展に貢献すること。 <p>到達目標</p> <p>A 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> a 収集した史資料・データを文献史学・考古学・地理学的方法論にもとづいて的確に分析し、実証的な歴史像および歴史・地域認識を提示することができる。 b 日本史学、東洋史学、朝鮮史学、考古学、西洋史学、イスラム文明史学、地理学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。 <p>B 技能</p> <p>B-1 専門的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> a 歴史空間論の領域において、新たな方法論や知見を提起しうる研究者として自立した研究活動ができる。 b 歴史空間論の領域に関する文献史料や一次資料、調査データを分析し、その結果を他の研究者にも幅広く活用可能な資料体として構築できる。 c 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。 d 人類の歴史・空間に関わる諸事象について実証的に考察し、かつ理論的な分析をくわえて、その成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。 <p>B-2 汎用的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。 b 人文学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。 c 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛え、他の領域と交流する視点を養う。 d 専門分野の学習を通じて人文学と社会のかかわりについて問題意識を育む。 e 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示し、実行する能力、またそのためのチームを運営する能力を身につける。 <p>C 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性をもつ。 b 共同研究において協力関係を築き、問題解決へ努力する協調性を備える。 c 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。 d 歴史学あるいは地理学の発展に自ら寄与しようとする意欲をもつ。 e 人文学の視点から社会への還元を志向する。
			<p>アドミッション・ポリシー (入学者受入れ方針・AP)</p>	
			<p>《修士・博士》</p> <p>●求める学生像</p> <p>本専攻では、現代社会の成り立ちを、時間的あるいは空間的な社会の多様性への関心を通じて見通すことを目標とします。具体的には、自ら史資料を収集・解析することで、特定の地域や時代における社会の特質を、実証的に、また理論的に解明する能力が求められます。その過程においては、人間精神の多様性を認識するセンスと、論理的思考力および独創性を養っていくことが期待されます。</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>入学選抜に当たっては、何よりも本専攻の教育理念にふさわしい人材の確保を基本方針とします。そのため、論文あるいは研究計画書の提出を求めるとともに、各専修に必要な専門知識や語学力を問い、さらに口頭試問を課します。</p>	

学府名	専攻名	学位	教育目的	ディプロマ・ポリシー (学位授与方針・DP)
人文科学府	言語・文学専攻	修士・博士	<p>《修士》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語および文学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供する。 ・学士課程での学習や学問的経験を基盤にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても多角的に考察しうる人材を養成する。 	<p>《修士》</p> <p>○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。 ・博士課程に進学し、専攻する学問領域においてさらに研究を深化させて、独創的な成果をあげること。 ・教育・研究に関連した職業に就き、文学研究あるいは言語学の体系的な知識や方法論を社会に普及させ、その一層の活用を図ること。 <p>到達目標</p> <p>A 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> a 言語を対象とする領域では、収集した言語データを言語学的方法論にもとづいて的確に分析し、文法的な構造や特徴を理論的に説明できる。 b 文学を対象とする領域では、過去に蓄積された重要な文献、とりわけ古典を厳密かつ精確に読解し、先行研究を踏まえつつその内実を深く掘り上げて説明できる。 c 国語学・国文学、中国文学、英語学・英文学、独文学、仏文学、言語学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。 <p>B 技能</p> <p>B-1 専門的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> a 人文基礎の領域に関する文献や一次資料、調査データを蒐集し、分析可能な資料体にまとめることができる。 b 関連する先行研究について基礎的な書誌を作成できる。 c 文学的あるいは言語的表象について実証的に考察し、かつ理論的な分析をくわえて、その成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。
			<p>《博士》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語および文学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供する。 ・修士課程での研究や学問的経験を基礎にしたより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても、国際的な視点に立ち根源的に考究しうる人材を養成する。 	<p>B-2 汎用的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。 b 人文学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。 c 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛え、他の領域と交流する視点を養う。 d 専門分野の学習を通じて人文学と社会のかかわりについて問題意識を育む。 e 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示し、実行する能力、またそのためのチームを運営する能力を身につける。 <p>C 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性をもつ。 b 共同研究において協力関係を築き、問題解決へ努力する協調性を備える。 c 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。 d 文学研究あるいは言語学の発展に自ら寄与しようとする意欲をもつ。 e 人文学の視点から社会への還元を志向する。
			<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針・CP)</p>	
			<p>《修士・博士》</p> <p>●教育プログラム</p> <p>本専攻は、国語学・国文学、中国文学、英語学・英文学、独文学、仏文学、言語学の6専修から構成されています。学生はどれかの専修を選択して、指導教員(1名)と副指導教員(複数名)のもとで研究指導を受けます。修士課程は論文指導2単位を含めた合計30単位以上の修得と修士論文、博士後期課程は論文指導4単位の修得と博士論文が修了要件となります。</p>	<p>《博士》</p> <p>○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。 ・文学研究あるいは言語学の体系的な知識や方法論を活かすべく、大学等の教育・研究機関に就職し、教育や研究において先導的な役割を果たすこと。 ・当該の専門分野において独創性を発揮し、探究から得られた新たな学問的成果を世界に発信して、学問領域の発展に貢献すること。 <p>到達目標</p> <p>A 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> a 言語を対象とする領域では、収集した言語データを言語学的方法論にもとづいて的確に分析し、文法的な構造や特徴を理論的に説明できる。 b 文学を対象とする領域では、過去に蓄積された重要な文献、とりわけ古典を厳密かつ精確に読解し、先行研究を踏まえたテキストの解釈あるいは本文の校訂・注釈ができる。 c 国語学・国文学、中国文学、英語学・英文学、独文学、仏文学、言語学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を批判的観点から体系的に説明できる。 <p>B 技能</p> <p>B-1 専門的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> a 人文基礎の領域において、新たな方法論や知見を提起しうる研究者として自立した研究活動ができる。 b 人文基礎の領域に関する文献や一次資料、調査データを分析し、その結果を他の研究者にも幅広く活用可能な資料体として構築できる。 c 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。 d 文学的あるいは言語的表象について実証的に考察し、かつ理論的な分析をくわえて、その成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。 <p>B-2 汎用的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。 b 人文学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。 c 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛え、他の領域と交流する視点を養う。 d 専門分野の学習を通じて人文学と社会のかかわりについて問題意識を育む。 e 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示し、実行する能力、またそのためのチームを運営する能力を身につける。 <p>C 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性をもつ。 b 共同研究において協力関係を築き、問題解決へ努力する協調性を備える。 c 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。 d 文学研究あるいは言語学の発展に自ら寄与しようとする意欲をもつ。 e 人文学の視点から社会への還元を志向する。
			<p>アドミッション・ポリシー (入学者受入れ方針・AP)</p>	
			<p>《修士・博士》</p> <p>●求める学生像</p> <p>本専攻は、言語という人類の最も基本的な知についての研究を特色とすることから、学生は、ものごとを根本から思索する能力が求められます。そのためにまた、現代の言語現象のみならず、過去に蓄積された重要な文献、とりわけ古典と呼ばれる文献を厳密かつ正確に読解する能力も必要とされます。</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>入学選抜に当たっては、何よりも本専攻の教育理念にふさわしい人材の確保を基本方針とします。そのため、論文あるいは研究計画書の提出を求めるとともに、各専修に必要な専門知識や語学力を問い、さらに口頭試問を課します。</p>	